滋賀県立高等専門学校構想推進本部会議（第２回）議事概要
令和５年３月７日開催(12:50～13:50)

出席者：
　三日月知事、宮川公立大学法人滋賀県立大学副理事長（代理)、栢木野洲市長
　学識経験者（八尾　健　氏、渡辺　圭子　氏）

三日月知事（本部長）：
・第１回会議（2 月 2 日開催）で基本構想 1.0 原案に対していただいたご意見をもとに修正を加えた最終案を本日はお示しする。
・また、来年度の基本構想 2.0 に向けた検討の方向性についてもご指導いただきたい。産業界とのプラットフォームを作り、カリキュラムや将来にわたる運営の支援などについて具体の意見を伺うこと、また、高専卒業生やこどもたちといった当事者、高専卒の方をたくさん雇用されている企業などからもご意見を伺うことなどにより、基本構想の精緻化につなげたい。
・３つのこと―「好循環」「共創」「挑戦」をしていきたいということ。滋賀県の風土の中で全ての人と地球のために貢献できる確かな技術を持つ人材というものを輩出するための学校づくり、仕組みづくりを皆様方と考えていきたい。

（報道機関　退室）

礒谷総合企画部管理監：
　資料１に基づき説明

（意見交換の概要）
＜前回からの変更点について＞
・前回の意見を丁寧に反映いただいている。スライドの８にあるように、共創の場で、「地域や産業の変革をリードするカリキュラム検討」という視点は、地域の「今」だけへの対応ではなく、地域の未来を一緒に展望していくようなカリキュラムの共創ということで期待している。
・スライド 17 にある施設の名称については、ラボ、図書館、交流施設といった機能を持つ施設であることが想起できるものが望ましいと思う。

＜今後の検討課題について＞

・企業との共創プラットフォーム、応援団づくりは重要。広い視野を持ち高専の味方になっていただける企業を見つけ、応援団を引っ張ってくれるリーダー的な方を見つけることが重要。
・安心安全な学生生活の点では、学生へのケアが必要。いじめや自殺防止のためのカウンセラーも大切。保護者との意思疎通も大事。
・他機関との連携については、単位互換は身近なところから、学生の利益になるように連携を考えられるとよい。
・企業との連携では、企業が高専の機器を使用することも望まれている。
・組織、人材、教員確保の点では、高専の教員は変形労働時間制のもとでの時間配分の苦労がある。働き方の工夫については、問題提起する必要があると感じる。
・広報については、保護者向けが非常に重要。中学生の進路決定は、子ども自身はもちろんのこと、保護者の考え方も重要。データ分析について、保護者の考え方なども調査されてはどうかと思う。
・実装フィールドの開拓について、教育の現場では、モノづくりの現場をよく考えた設計をすることを学生に伝えている。その観点からは、製造の組み立てや、品質管理の現場など、現場をしっかり見て加工方法のことを考えて設計する体験をしてほしい。
・企業でのシミュレーションの活用についても見てもらいたい。実物を組み立てる最終段階前のシミュレーションで、CAD、CAM を使用してどんなことができるか実感できる経験をしてほしい。企業経験がある教員であれば、うまく伝えられるのではないか。
・設備面でハブ機能の充実のためには、最低限でもリモートコミュニケーションができるような機器は必要。姉妹都市など海外ともつながり、他校や他学年との交流もできる。一元的に学生の学習履歴を管理できるシステムも便利である。
・学生相談室の関連で、大学には学生相談室やキャリアセンター、ハラスメント相談などの組織にそれぞれ専門職員がいて手厚いケアをされている。近年、心のケアが必要な学生も多く、そういう職員も必要と思う。
・女子学生の獲得については、大学でも悩んでいるところ。機械や電気など物理系はどうしても女生徒が少ない。理系文系の選択時点で、物理が好きな女性の場合でも周りの友人の進路や親の意識に影響を受けるところもある。現状は、身近に工学系の人がいて、親の理解がある学生が集まっているように思う。保護者の方にこちらを向いてもらうため、ロールモデルを見せることが重要ではないか。特別な方ではなく身近なロールモデルを示し、小学生の段階から、男だから女だからということではなく、子どもが主体的に進路選択できるように伝えていくことが大事と思う。
・単位互換について、環びわこコンソーシアムでの単位取得、企業インターンシップによる単位授与、PBL（プロジェクトベースドラーニング）体験での単位授与、姉妹都市など海外留学制度、ほかには留学生に来てもらっての交流プログラムなどがいいのではないかと思う。

・PBL の一環や、ラボステイ制度として大学の研究室に来てもらうという制度もあるので、それらもうまく単位に反映できれば良い。
・滋賀県と言えば鳥人間コンテスト。クラブ活動としてそういった活動を後押ししていってもいいのではないか。
・学びの内容の実装フィールドの開拓について、滋賀県は琵琶湖を中心に湖と里山とがつながる資源循環を常に肌身に感じられる強みをいかしたものづくり人材育成をリードいただきたい。
・我が国でも、「資源循環×次世代ものづくり」という視点での取り組み、物が捨てられなくなる時代のものづくりということで、ゴミを単にゴミにするのではなく次に使うモノづくり、資源循環経済の先進的な取り組みがある。これらを参考にしてはどうか。
・法人の評価委員会などでは、大学を持つ法人としての意義を見出し特色づけるなど全体として考えるべきだという意見が出ている。県とも一緒になって考えていければと思う。
・地域環境の側面も大きくアピールしていきたい。野洲川に隣接し、現在河畔林となっている場所は子どもたちが自然に触れ自然から学ぶ貴重な場所でもあり、自然との共生を求める要望も出ている。ゾーニングの検討に当たっては、できる限り配慮をしていただければと思う。
・隣接する国有地には市が防災ステーションを設置するので、国と連携することにより防災や環境分野での教材としての有効活用が期待される。
・高専設置は大きな事業であり市民の関心は非常に高い。高専を核として隣接の工業地域も含め、今後のまちづくりの核となることを想定して周辺の土地利用転換の検討も進めている。
・現在 JR が BRT（バス・ラピッド・トランジェット）を野洲の基地で実験されておられる。そういうものを利用して実証実験していただいても面白いかもしれない。

三日月知事（本部長）：
・本日もたくさんの御示唆をいただいた。今回は出発点として基本構想 1.0 を決定し、次に向けてこれをさらに御議論いただくこととしたい。
・同時に、今後具体にどう整備するのか、どう学んでもらうのか、どう皆さんと連携するのかということを一緒に創っていきたい。
・カリキュラム作りや人事面を中心に、来年度が１つの大きなステップとなり大事な年になる。引き続きお力添えいただきたい。